

## 第1章 テクノロジー・アセスメントの系譜

---

テクノロジー・アセスメントとはどのようなものなのでしょう。TAはTA導入を試みた国や組織、関わる人々によってさまざまな定義づけられてきました。また、社会・政治環境の変化に伴い、その扱われ方も変わってきました。このようなTAを、ひとくくりにして説明するのは適切ではありません。

本章では、これまでさまざまにいわれてきたTAについて、その発祥の地アメリカを皮切りに、日本、ヨーロッパの状況を概観し、その目的や役割などを、当時各国が置かれていた社会的背景も踏まえて考察することにより、TAとは何なのかについて考えたいと思います。

また合わせて、その他の技術評価との違いを見ることなどによって、TAに特徴的な考え方を確認します。

そして最後に、われわれがおかれている社会・文化的背景を考察することにより、わが国でTAをどのように活用していけば創造的な技術・社会の発展が実現できるのかについての提言を試みたいと思います。

## 1.1 アメリカにおけるTA

### ▶ TAの誕生

テクノロジー・アセスメント(Technology Assessment)という用語が最初に用いられたのは、1966年10月17日、アメリカ下院「科学および宇宙飛行に関する下院委員会」の「科学研究開発小委員会」のプログレス・レポート(研究の進捗状況報告)においてでした。

委員長のE. ダダリオ(E.Daddario)は、そのステートメントの中で、「テクノロジー・アセスメントは、政策決定者に対し、均衡のとれた評価結果を提示するための一種の政策研究である。その理念としては、的確な問題意識を持ち、正しく、しかもタイミングのよい回答を得るようなシステムでなければならない」と述べています。「新しい科学技術がもたらす利益だけでなく、それが持っている危険性に注目し、同時に科学技術の性格を国民に知らせる必要がある」として、そのための「早期警戒(earlywarning)システム」としてのTA委員会の設立を提言しました。この考え方に基づくテクノロジー・アセスメントは政策研究、政策科学の一種とみなすことができます。